

県庁の中庭に防災井戸を寄贈

近くオープンとなる県庁中庭の「オープンガーデンやまなし」の一角に、山梨県資質調査事業協同組合(萩原利男理事長・組合員6社)が防災井戸を寄贈し、3月25日に後藤齋知事を招いて贈呈式を行った。

「オープンガーデンやまなし」は、県庁の県会議



防災井戸の前で後藤知事とともに組合員の面々

事堂と旧館の間に新たに設けられた芝生とベンチのあるスペースで、組合では昨年8月から深さ85mの井戸を掘削し、揚水用ポンプとともに寄贈した。当日は組合員の各社の代表者も出席し、代表して萩原理事長に後藤知事から感謝状が贈られた。

災害の際に、飲料水はペットボトルなどで比較的十分に供給されるが、実は、トイレの水をはじめとした生活用水が停電や断水などにより供給されず、被災者の生活が立ちいかなくなる事態が数多く起きていた。防災井戸は4mの受水槽を持ち、非常時には自家発電機により「オープンガーデンやまなし」の周囲7ヶか所に設けられた水道栓から毎分150ℓの給水が可能で、災害時には防災拠点となる県庁の非常時の給水機能の備えとして重要な役割を果たすことになる。また、普段もポンプや受水槽の動作確認やメンテナンスを兼ねて「オープンガーデンや

まなし」の散水にも利用される。

萩原理事長は「東日本大震災以来、被災時の体制整備に人々の関心が向いてきた。県庁にも防災新館ができ、緊急時の備えが整いつつあった。防災井戸は、我々ボーリング業者としての専門性を活かして、防災に関する意識を形にすることができた。『いざという時』は来てほしくないが、その際には県庁機能の維持に大変役立つものになると確信している。」と述べた。



オープンガーデンやまなしの防災井戸